さいたま市立大砂土中学校 学校だより

溌剌と

～キーワードは「笑利」と「求利」！～

さいたま市立大砂土中学校

さいたま市見沼区東大宮１丁目１００－１

TEL・048-684-8004

第７号

令和８年１１月９日発行

ソフトボール部からの提案

校長　越智　宏明

７日の土曜日、有志の生徒たちによる除草ボランティアが行われました。実はこの取組、ソフトボール部の生徒たちからの提案により実現したものです。

夏休み中のことです。練習が終わったソフトボール部の生徒たちが「相談があります」と言って、集団で校長室にやって来ました。「Ｂ校舎前の雑草がとんでもないことになっているので、みんなで草刈りしませんか？」。確かにＢ校舎の前の雑草の広がりは、以前から目に余るものがあり、何とかしなければならないと思っていた矢先でしたので、新人戦が終わって涼しくなったら、みんなでやろうと約束していました。

当日、ソフトボール部の生徒たちはもちろん、事前の呼びかけに応じてくれた生徒たちを合わせ、２０名以上が参加してくれました。皆手に鎌を持って雑草が生い茂る叢（くさむら）に飛び込み、全身草まみれになりながら格闘すること１時間３０分、Ｂ校舎前西側部分は、見違えるほどさっぱりしました。生徒たちもこの成果には、大きな満足を覚えた様子で口々に「やってよかった」「やればできる！」と感嘆の声を挙げていました。当のソフトボール部の生徒たち、「校長先生、東側はいつやりますか？」と早くも第２弾に向けてやる気満々な様子。余程成果が嬉しかったのでしょう。





除草ボランティアを提案したソフトボール部の生徒たち（上）
１時間半ほどの作業でＢ校舎前のは、見違えるほどきれいになりました（下）

今回の取組、最初は、ソフトボール部の生徒たちが練習中に雑草の繁る校舎前を見て、何気ない雑談をしたことから始まったようですが、その雑談を雑談のまま終わらせるのでなく、校長室まで直接提案に来てくれて、さらに仲間に呼びかけて、有志を募ってくれたことに、大砂土中学校の生徒たちの「自治力」の高さを感じずにはいられません。なぜなら、ソフトボール部の生徒たちを始め、今回のボランティアに参加した生徒たちは皆、「自分たちが気持ちよくなりたい」という思いで自主的に除草作業を行ったのであって、誰も「みんなのために**やってあげた**」とは思っていないからです。そもそも、今回の取組をボランティアだとさえ思ってはいないのではないでしょうか？しかし、自分にとって生活しやすい環境、自分がしてもらって嬉しいと思うことを第一に考え、その実現に向けて自分から動く、これこそ自治のための基礎基本です。そうだとすれば、今回のソフトボール部の生徒たちの提案から始まった「ボランティアをボランティアと思わない」行いがどんどんと生徒たちの間で広がることで、この学校は、全ての生徒にとって居心地がよく、仲間を大切にする環境が醸成されていくと確信しました。

きれいになって見違えた校舎を背に嬉しそうに帰っていく生徒たちを見送りながら、いつの間にか私の心の中までも、すっきりと清められていたことに気付かされました。